



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年4月7日

No. 30

『一歩一歩進もう』

～Let's Move Forward Step by Step～
東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T



平成20年3月17日
卓話 『日本のこれからを考える』
千葉商科大学 学長
島田 晴雄 様



ご紹介を賜りました島田でございます。今景気がどんどん悪くなっていて日本よりも海外で悪くなっておりますね。昨年の暮れまで日本は6年間、戦後最長の景気回復だったんですね。官民の構造改革努力と低金利と安い円を使ってどんどん輸出したのでデフレを脱却しつつあった。ところが今年になってそれががらっと変わった。サブプライムで世界経済が収縮を始めたわけです。アメリカが金利を下げドル安になると逆に円高になって輸出が難しくなりますね。そこへ持ってきて改革が止まったのではないかという評価を世界中がしはじめた。私は政治不況と呼ばなきゃいけないと思うんですけど、ねじれ国会ですから日銀総裁1人が決められない。それから政策不況。例えばヒューザーの問題で建築基準法を改正して、がちがちの法律を作っちゃって建築許可が下りない。貸金業法改正でノンバンクが収縮した。政治と政策で経済の足を引っ張ってるんです。世界経済は奈落の底に落ちつつある。サブプライムの問題は自信がなくなったこと。回復には2、3年かかるかもしれません。

今一番日本に求められているのは気概だと思います。学生の問題意識がすごく少なくなってきた。アジア諸国の学生と比べるとすごい格差です。政治も党利党略やってる時代じゃないのに、それを抜け出せない。それから今、工場でやたらに事故が起きますね。今の工場働いている方々、給料貰った分だけ働くという感覚になっている。これは経営者も同じ。やたらに欺瞞が行われてますけど、ちょっと異常ですね。

私は日本が今から成長で燃えることはないと思います。燃える必要も無い。1986年には世界最高の所得を一度達成した国ですから成熟国なんです。残念なことは国民全体が目的を共有して奮い立つことが絶えてない。いつ我々は目標を失ったのか。これは最高所得国になった辺

りがターニングポイントだと思うんです。日本はこれから小国化していきます。そのことは全然かまわない。ただそういう国が世界から尊敬と信頼を得るにはどうしたらいいか。国内的な問題と国際的な問題とがございませう。



国内的な問題は、人口が多いところから少ないところに移っていく過程でシステムの崩壊が起きる。基金を基にして運営している仕組みが崩壊していくんですね。最大が年金です。それから医療、介護。経済は収縮しても企業は絶対収縮できない。企業は人様の金で運営しますから。これからの日本企業が成長するってことは世界にどんどん出て行くってことです。そのときに世界から信用・信頼がないと活動できない。じゃあ世界が日本を信用してくれるために何をしたらいいか。環境問題も日本自身が本当に環境をよくしないと説得力がない。それから教育とかライフサイエンスで徹底的に世界に貢献することで日本の行く道が確保される。そういう国内の大構造改革と世界における信用の確保は、戦後の焼け野原の中から頑張ろう、頑張ろうと言った時代の目標よりはるかにやりがいのある目標だと思うんです。

私どもの大学は3つ目標を掲げてます。明るく、やさしく、へこたれず。どんなに言われてもニコニコして人の話はよく聞く。どんなに苦勞があっても止めない。この3つがあれば世の中の役に立つ。そんな大学を作りたくて今年サービス創造学部を作ることになりました。これから日本はサービス化経済ですからその人材を作って支えなきゃいけない。大変難しい時代ですけど、奮い立つような国を作っていければと思います。